活かされる『番組小学校』②　～元龍池小学校（京都国際マンガミュージアム）～

番組小学校は、明治政府の学制発布に先立つ明治 2（1869）年に、地域住民の力で創設された小学校です。この歴史ある都心部の小学校も、人口減少や少子化による児童数の減少により統廃合が進み、跡地活用が進められています。このような中、旧校舎を保存活用し、文化芸術の拠点やホテルなどに利用されるケースが近年話題となってきましたので、前回の元明倫小学校に続き、今回は京都国際マンガミュージアムとなっている元龍池小学校を訪ねましたのでご覧下さい。

《ご紹介》

番組小学校 2 回目は、元明倫小から北約 700 メートルのところにある元龍池小に、室町通を通って向かった。室町通沿道には祇園祭の鯉山保存会、黒主山保存会、役行者山保存会が続き、誉田屋源兵衛をはじめとする大規模町家も残っている。御池通で東に折れ、両替町通を上がって元龍池小学校に行った。

御池通は近代まで三条坊門小路という狭い道路だったが、太平洋戦争末期の 1945（昭和 20）年、空襲による類焼防止策として鴨川から堀川通までの沿道が建物強制疎開地となり、戦後も空地のままであった。47（同 22）年御池通を幅員 50 メートルの都市計画道路とすることが決まり、事業完了後、市内幹線道路として沿道に高層建築物が建ち並んでいった。

平成になって地下鉄東西線の建設が進む中、97（平成 9）年の東西線開通や御池地下街・地下駐車場の開業を前に、上を走る御池通を主要な公共空間として整えるため、鴨川から堀川通までの 1.74 キロを「シンボルロード整備事業」として整備する街路事業が始まった。約 49 億円を投じ 2003（同 15）年に完成した御池シンボルロードは、車道幅 26m、北と南の歩道がそれぞれ幅 12m もあり、けやき並木の中をゆったりと歩ける公共空間となった。

御池通南側歩道を東に行くと、烏丸交差点手前に白いガラスブロックの清楚な公衆トイレがある。シンボルロード事業で造られたもので、公募で「龍珠軒」（「トワレ・リュージュ」と読む）の愛称がついた。烏丸交差点から北西方

➢　元龍池小学校

読みふける　明治の子孫　日向ぼこ　校庭にて

上：本館正面

中：校庭から北を見る

下：校庭から南を見る

➢　烏丸御池交差点　（左：北西側、右：南西側「龍珠軒」）

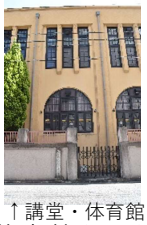
向を見ると、ビルの向こうに元龍池小学校がよく見える。明治安田生命京都ビルの東側部分が低層になっているからだ。このビルを建設するとき、地元住民は龍池小学校の校庭にビル陰を落とさないでほしいと要請し、会社側もそれを受け入れ 9 階建ビルの東側部分を 2 階建てにしたのだという。

龍池小学校は、1869（明治 2）年に上京 25 番組小学校として創設された。校舎は町内各戸からの寄付金 2000 両だけで建設。当初の敷地は御池通両替町通北西角で、御池通を正面とし木造 2 階建と平屋建の 2 棟であったが、児童数が増加し 76（同 9）年 2 月に校地北側の両替町通に面した旧銀座跡地に移転。現校舎の一角には、両替町通に面して「此附近徳川時代銀座遺址」の石碑が立っている。同年 11 月には北側官地を無償で下付され拡張地としており、龍池校は明治前期においてすでに間口・奥行ともに広く、方形に近い 1200 坪余の校地を確保し現在に至っている。

大正末期から新たな校舎の改築計画が進められ、京都市営繕課の設計により 1928（昭和 3）年に北西側の講堂・体育館のある校舎、翌年に本館、37（同 12）年に北校舎が竣工した。本館は、両替町通に面する RC 造 2 階建。正面中央に玄関を設け、南と北に翼棟をつけたＨ形平面。玄関に庇を付け上部の窓にアール・デコ風の額縁と方立をもち、西面窓を細長く仕切って垂直性を強調するなど、簡潔だが特色のある外観。北校舎は、旧講堂棟の東に位置する RC 造 3 階建。外壁の各柱間には縦長の窓を 3 つずつ配し、垂直性を強調した外観。旧講堂棟は、RC 造 2 階建で、1 階が屋内体操場、2 階が講堂。1 階がアーチ窓、2 階が縦長の方形窓で、窓間にアール・デコ意匠の方立と柱形でリズム感のある外観。いずれの建物も 2006（平成 18）年に改修され現在に至る。

元龍池小学校を保存活用し、本館、北館、講

➢ 元龍池小学校



↑講堂・体育館

↑京都国際マンガミュージアム

堂・体育館をつなげる形でリノベーションしてできたのが京都国際マンガミュージアム。マンガ資料の収集・保管・公開、マンガ文化に関する調査研究、そして展示やイベント等の事業を行うことを目的に、京都市と京都精華大学の共同で行うこのミュージアムは、マンガ資料として約 30 万点を保存。江戸期の戯画浮世絵から明治・大正・昭和初期の雑誌、戦後の貸本から現在の人気作品、海外のものまで取りそろえ、博物館的機能と図書館的機能を併せ持った新しい文化施設となった。

このミュージアムが元龍池小学校にできるまでには紆余曲折があった。小学校閉校前の 1994（平成 6）年、京都市都心部小学校跡地活用審議会での検討の結果、ここには延床面積 1 万 5000 平方メートルの大規模な新中央図書館の移転が内定していた。しかし市の財政難により移転計画は宙に浮いたままに。しかも「地元の自治連合会の了解を取り付ける」「売却しない」という大原則があり、京都市として独断で決められなかった。

このような中、京都精華大学がマンガ学部新設にあたり、収集してきたマンガの収蔵庫として閉校小学校を借りたいと 2003（同 15）年に市に打診があり協議が始まった。当初、収蔵庫だけでは認められないと難色を示すなか大学がそれに対応し、3 年半後の 06（同 18）年 11 月に京都国際マンガミュージアムの開館に至った。建物改修費は 12 億円、うち市の負担はミュージアムと自治連活動の面積比率から 1 億 200 万円、残りは大学の負担といい、館内の国際マンガ研究センターは文部科学省のオープン・リサーチ・センター事業に採択された。

こうしてできたミュージアムは、元龍池小学校の校舎を活用し当時の佇まいを残すことで、長年地域のシンボルであった小学校の役割を引き継いでいるともいえ、漫画愛好家だけでなく観光客や市民からも愛される施設となっている。